

1: 【The Black Note】第3話 過去へ
2:
3: ■オープニング
4:
5: デュレモノログ「光のあるところには、必ず影ができる。歴史もそれは同様で、表の歴史のすぐそばに、裏の歴史がいつも存在していた。けれどあの頃は、誰一人として、そんなことを考えて
6: はいられなかった。その歴史が表か裏かなんて、そのときを生きているものにはなんの関わりもな
7: いことなのだから……」
8:
9:
10: ■タイトルコール
11:
12: デュレ「The Black Note第3話・『過去へ』」
13:
14: ■本編
15:
16: //学園周辺
17:
18: セレス「で、どうしてこんなことになったのかは説明してもらえますでしょうか？ 森まで送って
19: くれるってはずが何故ゆえに学園のすぐそばまでなのだ！」
20: デュレ「そんなことはわたしにはなく、久須那に聞いてくださいっ！」
21: セレス「だって、久須那は絵の中に引っ込んで出てこないんだから仕方がないじゃない。
22: うら、デュレ……空間転移魔法なんてやめて、歩こうよお……」
23: デュレ「何を言っているんです？ 歩いたらどれくらいかかると思ってるんですか？」
24: セレス「だって、怖いんだもん。リボンちゃんだって、そう思うでしょ？」
25: シリア「なんで、そこでオレに振るんだ。
26: セレス「ウイズでもいいけど……イマイチ、頼りがい、ないんだもん。
27: ウイズ「なんだ、その言い草。こう見えて、結構頼りになる男なんだぞ？ オレは」
28: セレス「ふうん……」
29: ウイズ「あー！ 信じてないな！！」
30: セレス「だって……ねえ？」
31: デュレ「そうですね……頼りがいは、ないかもしれませんがね」
32: ウイズ「くー。なんだ、この仕打ち！ こう見えても、同盟じゃ1, 2を争う剣の腕前なんだぞ！」
33: セレス「同盟って、人材不足なの？」
34: ウイズ「なんだと!？」
35: デュレ「二人とも、いいかげんにしてください。気が散るでしょう？ フォワードスペルは調整が
36: 難しいんですよ？」
37: セレス「だって、ひまなんだもん」
38: デュレ「あなたはそうかもしれませんがね、フォワードスペルは難易度最大級なんですよ？ 転
39: 移魔法には集中が大切なんです。もし、ちょっと間違えて移動先を指定したりしたら、どこか別の
40: 次元に吹き飛ばされたり、体がぼろぼらになったりするかもしれないですよ？」
41: セレス「こ、こわ……。危ない橋、わたってるのね」
42: デュレ「わかったら、静かにしてください」
43: セレス「はあ〜い……」
44: デュレ「では、フォワードスペルっ！」
45:
46: SE：フォワードスペル効果音

47:
48: シリア「デュレ、このあたりからは歩きでいい」
49: デュレ「あら、歩きですか？ こんな大きな絵を抱えて歩いたりしたら、足が痛くなりそうですね」
50: シリア「大丈夫だろ。そこはウイズに任せれば」
51: ウイズ「……まさか、オレは荷物もちか！」
52: シリア「男なら、きりぎり働け」
53: ウイズ「まったく、オレをなんだと……」
54: セレス「あっはは、びったりのお役目じゃん！」
55: ウイズ「くう、うるさいぞ！！」
56: デュレ「騒がしいですよ」
57: セレス「はあ〜い」
58: ウイズ「へいへい」
59:
60: SE:遠ざかっていく足音
61:
62: //長耳亭（みみながてい）
63:
64: セレス「ふわ〜、疲れた！ ねえねえリボンちゃん、いつになったらそのお、ジーゼとかって言う
65: ヒトの家につくの？」
66: シリア「まったく、子供だな、おまえは……」
67: セレス「子供じゃないもん！ で、いつなのよう！」
68: シリア「もうすぐだ。ほら、あそこ」
69: セレス「え、どこどこ!？」
70: シリア「でっかい看板が見えるだろ」
71: セレス「あ、あった！ えーと、『軽食&喫茶・耳長亭』」
72: デュレ「ここが目的の場所……ですか？ 喫茶店にしか見えなんでしょうが」
73: シリア「まあ、喫茶店だからな」
74: ウイズ「なんで喫茶店なんだよ」
75: シリア「ここがジーゼの店だからな」
76: セレス「えっ、ここがジーゼの？ でもこんな夜中だよ。喫茶店だったら、もう店じまいしてるん
77: じゃないの？」
78: シリア「先に連絡は入れてあるからな。食料を食い荒らしにいくってね？」
79: セレス「むう、そうなんだ。ごめんくださ〜い！」
80:
81: SE：とたとた走ってくる音
82:
83: クリルカ「いらっしゃいませー！」
84: シリア「お、クリルカ。こんな時間まで起きてたのか」
85: クリルカ「あ〜！ シリアくん！ も〜、ずっと待ってたんだよ〜！」
86:
87: SE：ぎゅうう、と抱きつく音
88:
89: シリア「く、苦しい……」
90: ジーゼ「クリルカ、あんまり困らせちゃダメよ」
91: クリルカ「はあ〜い……つまんないの！」
92: ジーゼ「ごめんなさいね、この子ったら、シリアがくるのをずっと楽しみにしていたみたいで……。」

08.07.29
TBN03改修正.rtf

93: さ、中に入って。遠くから来て疲れたでしょう？ おなかがすいてるなら、ちょっとした食べ物く
94: らいだったら出せるわよ」
95: セレス「わーい！ もう、おなかペコペコだよ！」
96: デュレ「まったく、セレスったら……食い意地がはってるんですから！」
97: セレス「何さ！ もう、だって、ずーっとじっとしてないといけないしっ、ひますぎで疲れちゃっ
98: たの！」
99: デュレ「ええ、そりゃあ暇でしょうね。セレスはぼーっとしてただけですし！」
100: セレス「な、なによお！ その嫌味な言い方!!!」
101: デュレ「あら、本当のことですよね？」
102: セレス「きーっ！ 何よ何よ何よーっ!!!」
103: シリア「おいおい。お前ら、こんなところでケンカをはじめんなよ」
104: クリルカ「そうだよ！ みんな仲良くしなくちゃダメなんだよ〜？」
105: デュレ「……セレスのせいですよ」
106: セレス「なんであたしのせいになるのよ！」
107: ジーゼ「はい、そこまで。あんまり騒いでると、水も出しませんからねー？」
108: セレス「ええっ、それは困るーっ！」
109: クリルカ「だったら、ちゃあんと、いい子にしないとダメなんだよ！」
110: セレス「へへ、はいー」
111: デュレ「……あら、ウィズ。どうしたんです？ そんなところでぼうっとして。中に入らないんで
112: すか？」
113: ウィズ「んー、いや、なんか……」
114: セレス「具合でも悪い？」
115: ウィズ「そういうわけじゃないんだけどさ。なんか、こういう団欒みたいなのに混ざるのって、勇
116: 気があるっていうか」
117: セレス「え、なんで勇気がいるの？」
118: ウィズ「——同盟はこんなじゃ、なかったからな」
119: セレス「なーんだ、そんなことか！ 平気、平気。同盟はともかくさ、あたしたちといるときは楽
120: しようよ」
121: デュレ「そうですよ。セレスをいじって遊べる機会なんですから」
122: セレス「ちょ、ちょっとお！」
123: ウィズ「……ふっ、はは、ははははは！」
124: セレス「え、なんで笑うわけ？ ここ笑うところお？」
125: ウィズ「悪い、悪い。悪意があるわけじゃないんだ」
126: セレス「もし、あったりしたらタダじゃおかないよ！」
127: ウィズ「なんでそう、暴力的なんだよ！ エルフのクセに！」
128: セレス「何それ！ エルフ差別だよ!!!」
129: デュレ「……まったく、仲がいいですこと」
130: シリア「似たもの同士ってやつだろうな」
131: デュレ「そうですね。……ところで、リボンちゃん」
132: ジーゼ「あら、リボンちゃんなんて呼ばれてるの？ かわいいわね！」
133: クリルカ「ふさふさ尻尾にリボンついてるからなのかな〜？」
134: シリア「うら、リボンちゃんって呼ぶな……！」
135: デュレ「リボンちゃんはリボンちゃんでしょう」
136: シリア「俺にはシリアって名前が」
137: デュレ「まあ、そんなことはさておき」
138: シリア「さておくな」

08.07.29
TBN03改修正.rtf

139: デュレ「久須那の封印をとくのと、この喫茶店と何の関係があるんです？ 見たところ、特に関係
140: があるようには見えないんですが」
141: シリア「……そうだな。確かに、ぱっと見はわからないだろうな」
142: デュレ「どういうことですか？」
143: シリア「カギはこの耳長亭の裏にあるエルフの森と過去にあるのさ」
144: デュレ「過去……？」
145: シリア「224年前に行くんだ」
146: デュレ「そんなことが出来るはずがありません。だって、そうでしょう？ 時の精霊、クロニウス
147: が助けてくれない限り……？」
148: シリア「……そうかな？ この森はちょっと特殊なのさ。この場所なら、過去への扉をこじあけ
149: ることが出来る。ま、条件がそろった時しか、そんな芸当はできないけどな」
150: デュレ「それで……わたしたちはどうするんです。その、224年前に行けたとして」
151: シリア「シェイラル司祭の一族の末裔に会うんだ。それが久須那を救うカギになる」
152: デュレ「そして、そこには呪いをかけた相手がいる、ということですね？」
153: シリア「……まあ、そんなところだ。今はそれ以上は教えられない」
154: デュレ「それなら質問を変えます。なぜ今、久須那の封印を解くんですか？ 224年前にカギがあ
155: るなら、その時代に封印を解いてしまえばいいはずなのにどうして今？」
156: シリア「今である必要があるからさ」
157: セレス「ほえ？ 何が？ どういうこと??」
158: デュレ「それも言えないというつもりですか？」
159: シリア「ああ、それも言えないね。……どうしてもと言うのなら、一つだけ教えてやる。過去にわ
160: たり、無事に戻ってこれたら、全部わかる。——つまり、そういうことなのさ」
161: デュレ「つまり、そういうことなんですね。自分で、全部、見て、理解すると」
162: セレス「あたしにはさっぱり判んないんだけどっ！」
163: ウィズ「お、大丈夫か、セレス。なんか熱いぞ」
164: セレス「ううっ、熱が出ちゃいそうだよ！」
165: ウィズ「知恵熱か？」
166: デュレ「どうやら、セレスには難しすぎるようですね」
167: セレス「ううっ、馬鹿にしてえ……！」
168: デュレ「馬鹿にしてるわけではないんですけどね。当たり前のことを言っているだけで」
169: セレス「フォローになってないいい！」
170: ウィズ「無理するなよ。ホントに熱いぞ」
171: セレス「うううううううー！」
172:
173: //翌日。
174:
175: SE：森の中を歩く
176:
177: デュレ「ふしぎなところですね……。なんだか、懐かしい気がします」
178: ジーゼ「そうですね。森はエルフの故郷ですもの」
179:
180: SE：森の中を歩く
181:
182: セレス「あれ？ なんか、光らなかった？」
183: ジーゼ「見えるの？」
184: セレス「うん……何かな、あれ」

185: デュレ 「これは……。速くから見ると、透明なように見えたのに。近くに来ると、緑色に……」
186: セレス 「え、ほんとだ！ なんでだろう？」
187: ジーゼ 「ふふ、あなたたちは純粋な心の持ち主なのね」
188: セレス 「えっ？ どういうこと？」
189: ジーゼ 「これはわたしの精霊核。精霊が生まれるところには必ず一つは存在するのよ」
190: セレス 「ええっ！？ これが！？ この大きな水晶みたいのが……？」
191: ジーゼ 「そう。あなたたちにはどうやら、資格があるようですね。普通はこの精霊核を見ることも
192: 感じることも出来ません……。精霊核が見も知らないあなたたちに姿をハッキリと見せるなんて、
193: 滅多にあることではないですよ」
194: デュレ 「つまり……私たちは、精霊核に認められた、ということですか」
195: ジーゼ 「そういうこと」
196: シリア 「さてと、のんびりお話はここまでで……。向こうで、お前たちの到着を心待ちにしている
197: 連中がいる。……今から、お前たちを過去に飛ばす。ジーゼの精霊核の力を使ってな。——デュレ、
198: おまえならわかるだろ？ その理由」
199: デュレ 「精霊核は……記憶が純化してでき上がった記憶の結晶体だと聞いたことがあります」
200: シリア 「その通り。この緑の精霊核に宿ったリテールの記憶から目的の時代を探るのさ」
201: セレス 「224年前に……」
202: シリア 「そうだ。——セレス、水色のかげらを持っているな？」
203: セレス 「え、あるけど。なんで知ってるの？ 父さんの形見のコト……」
204: シリア 「……知ってるさ。おまえはアルタによく似てる」
205: セレス 「ええっ！？ リボンちゃんって父さんの知り合いだったの！？」
206: シリア 「まあ、ちょっとな」
207: セレス 「えっ……。どうして、教えてくれなかったの」
208: ジーゼ 「その水色の精霊核かけらは、私がおあなたのお父さんに……アルタに、渡したもののなの。セ
209: レス、お父さんも遺跡の発掘調査によく出向いていたでしょう……？」
210: セレス 「……うん」
211: ジーゼ 「黒い翼の天使が絡んだ調査をするのには、危険がともなうから。少しでも助けになればと
212: 思ってね。——そう、精霊核には不思議な魔力があるのよ……。それが例え、欠けらだったとして
213: も……ね」（最後はちょっと淋しそうに）
214: セレス 「そうだったんだ……ありがとう」
215: ジーゼ 「どうして？」
216: セレス 「父さんは、行方がわからなくなるまで、きっとこれに守られてたんだと思う。あたしにこ
217: れをくれてから、すぐにいなくなっちゃったから……」
218: ジーゼ 「セレス……」
219: セレス 「でもこれをあたしに渡したせいで、お父さん、いなくなっちゃったのかな。みんなは死ん
220: じゃったって言うてる……もし、本当に死んじゃってたら、あたし」
221: デュレ 「……ハンカチ、貸してあげます」
222: セレス 「な、なんで、そんな……優しく……」
223: デュレ 「私だって、鬼じゃないですからね」
224: セレス 「ありがと……」
225: ジーゼ 「ん……よしよし」
226: セレス 「あたし……こんなもの、受け取らなかったらよかった。そしたら、父さんはまだあたしの
227: そばにいてくれたのかな……」
228: ジーゼ 「セレス……そんな、気に病むものじゃないわ」
229: セレス 「ケンカしたまんまだったんだよ。あのとき……あたし、くだらないことでケンカして。朝、
230: 起きたら、置手紙と一緒に、このかけらが置いてあって……手紙にはごめんって書いてあったの

231: に。あたしは、謝れなくて……そのあとすぐ行方不明に……」
232: ジーゼ 「……そう。つらかったのね」
233: セレス 「ううっ……」
234: デュレ 「……セレス。泣き止んだら、行きますよ」
235: ジーゼ 「そんなに急かさなくともいいのに」
236: デュレ 「でも、急ぐことでしょうか？」
237: シリア 「まあ、それはな」
238: デュレ 「セレスは泣き止めることくらい、わかってますから」
239: セレス 「……へへ、あたし、信用されてるね」
240: デュレ 「腐れ縁ですからね」
241: セレス 「うん、ありがと」
242: シリア 「さて、それじゃ、準備は？」
243: セレス 「大丈夫！」
244: デュレ 「私は問題ありません」
245: ジーゼ 「それなら、二人で手をつないで……しっかりと、かけらをにぎって」
246: セレス 「え、こう？ こうかな？」
247:
248: SE：ぎゅ。手を握る音
249:
250: デュレ 「あんまり強くにぎらないでください。痛いですよ」
251: セレス 「あ、ごめん！」
252: デュレ 「まったく、がさつなんですから……」
253: ジーゼ 「もう、ケンカしないのよ。ケンカしてたら、精霊核は答えてくれないわ」
254: セレス 「うっ……それじゃあ、どうしたらいいの？」
255: ジーゼ 「心の中でお願いするの。あの日を、思い出してくれるように——」
256: デュレ 「あの日？」
257: セレス 「あの日って、どの日？」
258: ジーゼ 「そう、あの日。シメオンが滅ぼされたあの時。黒い翼の天使・マリスの記憶……」
259: セレス 「なんのことなのかさっぱりだよ」
260: ジーゼ 「それでもいいの。わからなくとも大丈夫……。224年の遠い昔に行きたいと心の奥底から
261: 願えることが出来たら、こうやって、精霊核の記憶の糸を手繰ってける。必ず覚えているわ。あの
262: 時代のことは……絶対に忘れられない……」
263: セレス 「……そっか。うん、がんばる」
264: デュレ 「私も、ですか？」
265: ジーゼ 「そうね、二人で」
266: デュレ 「はい……」
267: ジーゼ 「——二人で心を合わせられたら、精霊核は必ず応えてくれる……」
268:
269: (以下は精霊核の記憶を探る部分と重ねます)
270: SE：怒号
271:
272: マリス 「——後悔するがいい……。わたしに手向かったことを死の瞬間まで悔いるがいいっ！」
273: シリア 「引け、引けえ！ ひかないとやられるぞ！」
274: デュレ 「リボンちゃん！ 迷夢！」
275: マリス 「わたしの目の前から永遠に消え失せろっ！」
276: サム 「まあ、そう、急かすなよ。お楽しみは——これからだぜっ！」

277:
278: SE：しゅわーっという感じの魔法の効果音
279:
280: マリス「――わたしを呼ぶのはやはり貴様か……小僧！」
281: シリア「ああ、決着をつけよう」
282: マリス「ふ……。身の程知らずもいところだ。わたしは手加減などしない。――三度（みたび）
283: までも貴様らの後れを取ることはない」
284: シリア「案ずるな。それでもオレたちは負けはしない……」
285:
286: シリア「……行ったか」
287: ジーゼ「ええ……そうね」
288: シリア「戻ってくるかな、あいつら」
289: ジーゼ「戻ってくるわよ。きっと」
290: シリア「そうか……そう、だよな」
291: ジーゼ「ふふ、弱気になるなんてシリアらしくないわね」
292: シリア「いやな予感が消えないんだよ」
293: ジーゼ「……そうね、奇遇だわ。私もなの」
294:
295: SE：草を掻き分けて走ってくる音
296:
297: ウィズ「おーい！」
298: シリア「ウィズ？ クリルカも……どうした！？」
299: クリルカ「大変だよ！ マリスが……！」
300: シリア「くそっ、もうこの場所をかぎつけてきやがったか！」
301: ジーゼ「早いわね……もちこたえられるかしら」
302: シリア「やってみるしかないだろうな。ウィズ、剣は持ってきてるんだろうな？」
303: ウィズ「当たり前だろ」
304: シリア「よし。クリルカを守ってやってくれ」
305: ウィズ「なんだなんだ、子供のお守りか？」
306: シリア「おまえが一番の適任なんだよ」
307: ウィズ「……仕方ないな」
308: クリルカ「別に、わたしは一人でも大丈夫だよ？」
309: ジーゼ「いいから、おとなしくしてるのよ」
310: クリルカ「はあ～い……」
311:
312: //場面転換
313:
314: セレス「ふわ！？ なんだろう、ここ……すこく、変な感じの場所」
315: デュレ「そうですね……」
316: セレス「うん……なんだろう。あたしがあたしでなくなるみたいな、そんな感じがする。あたし
317: ……」
318: デュレ「しっかりしなさい、セレス」
319: セレス「デュレはいつも、ホント、しっかりしてるもんねえ……どうせあたしは、ダメな子です
320: よお～だ！」
321: デュレ「まったく、セレスは……すぐにすねる」
322: セレス「ふーん、だ！」

323: デュレ「すねて迷子になっても知りませんよ？」
324: セレス「あ、それは困る！ ダメ！」
325: デュレ「でしよう。ほら、ちゃんと手を握ってください」
326: セレス「う、うん……ねえデュレ、なにかあっちに扉みたいなのがたくさん見えるよね」
327: デュレ「そうですね……あの中に、入ればいいんでしょうか」
328: セレス「入ってみる？」
329: デュレ「……糸が伸びていますね」
330: セレス「あ、本当だ！ この糸たどれば、いいのかな？」
331: デュレ「おそらくそうですね。行きますよ！」
332: セレス「おうー！」
333:
334: //場面転換
335:
336: SE:どさっ、と地面に落ちる音
337:
338: セレス「ううっ、痛あ～！」
339:
340: SE：鐘の音
341:
342: デュレ「ここは……どこでしょう」
343: セレス「あーもうなんでそんなに冷静なのよ！ 少しは痛みを分かち合ってくれたっていいじゃない
344: い！！」
345: デュレ「くだらないことを言っていないで、静かにしてください。ここはもう――わたしたちの知
346: らない過去なんですから」
347: セレス「そっか……そうだよな。でもここ、どこなんだろう？ そして今はいつなんだろう？」
348: デュレ「あそこに時計塔があります。ここはシメオンで、時計塔が破壊される前だと考えるのが妥
349: 当でしょうね」
350: セレス「えーっと、と、いうことは目的の場所についたってことなのかな？」
351: デュレ「おそらくは……。ただ、シメオンの時計塔はつくられてから7年は時を刻んでいたはずで
352: す。もしかしたら、多少のずれがある可能性もありますね」
353: セレス「むう～っ。もう、なんでこんなに不親切かな！ どうせなら目的の場所に、誰か事情のわ
354: かる人がいるところにあればいいのに！」
355: デュレ「そんな無茶を言っても仕方ないでしょう？ セレスのいうほど融通が利いたらこんなに苦
356: 労してるはずがありません！」
357: セレス「そうだけど……」
358: デュレ「さ、セレス。まずは身を隠すところを探しましょう」
359: セレス「えっ？ なんて？」
360: デュレ「東の空が白んできています。もうすぐ、夜が明けるといことですよ」
361: セレス「うん、そうだね。明るくなって動きやすくなると思うよ」
362: デュレ「何を馬鹿なことを言っているんです？ 目立たない方がいいに決まっているでしょう？
363: 私たちはここにはいないはずの人間なんですから」
364: セレス「あ、そっか……」
365: サム「どうしたんだい、お嬢さんたち！」
366: デュレ「誰っ！？」
367: サム「おっと、いきなり闇護符を出すとは穏やかじゃないな……別に危害を加えるつもりはないん
368: だけどね」

369: デュレ「いつから聞いていましたか？ 答えによってはタダでは……」
370: サム「おー、怖い怖い。そんなに怒ると可愛い顔が台無しだぜ？」
371: デュレ「余計なお世話です！ フェザーカッター！」
372:
373: SE: 炎が燃え上がる音
374:
375: デュレ「キャリアアウト！」
376:
377: SE: 風をきって何かが飛んでいく音
378:
379: サム「まだまだ甘いな」
380:
381: SE: 剣をふるう音
382:
383: デュレ「なっ……全部切り捨てた!？」
384: ちゃっきー「ハイハイヘーイ！ そいつは剣とエロでは右に出るものはいないといわれている男なの
385: さあっ！」
386:
387: SE: どすっ、と踏み潰す音
388:
389: ちゃっきー「ぐふっ……」
390: セレス「な、何それ……？」
391: サム「気にするな」
392: セレス「気にするなって言われても気になるよ？」
393: サム「毒小人だよ。知らないのか？」
394: デュレ「聞いたことがないですね……」
395: セレス「何か、気色悪いのが手？ 振ってるよ？」
396: サム「ちゃっきー、てめえはよ、絶妙なタイミングで現れやがって、どこで嗅ぎつけて来やがる？」
397: ちゃっきー「サムたちは女の子を発見すると超強力毒電波を発するのだ。そりをおいらが超弩級パ
398: ラボラアンテナで余すこと受信！ 怪電波を傍受すると疾風のごとく颯爽と登場するのです」
399: サム「あっそ。今はてめえを構ってる場合じゃないんでね。どっか行ってる～」
400: ちゃっきー「あ～れえ～！」
401:
402: SE: 飛んでいく音
403:
404: サム「ま、そんなことはさておき。おまえら、エルフだろ？」
405: セレス「見たまんまだよ」
406: デュレ「それが、何か？」
407: サム「そんな、怒るなよ。おまえらのために思ってやってるんだからな」
408: デュレ「……どういことですか？」
409: サム「そのまんまさ。おまえら、ここが今どんな状況なのかわかってるのか？」
410: セレス「んー、ぜんぜん」
411: サム「……冗談じゃないだろうな？」
412: セレス「冗談でそんなこと言って、なんかいいことあると思う？」
413: サム「それもそうだな……第1、わかってるならこんなところにいるはずはない、か」
414: デュレ「何か困った状況——と、いことですか？」

415: サム「ああ……そういうことだ。おまえら、どこから来たんだ？ なんて、知らないまんま、こん
416: なところにもぐりこめた？」
417: デュレ「……あなたが私たちの質問に答えてくださるなら。私たちも、答えますけど？」
418: サム「なんだ、取引しようってのか？」
419: デュレ「いいえ。単純に、あなたが誰なのかもわからない以上、こちらもベラベラと素性を明かす
420: わけにはいかない、ということです」
421: サム「ま、それもそうか。オレは協会護衛騎士団ちよ……いや、サムと呼んでくれ」
422: デュレ「協会関係者のサムですね」
423: サム「前置き部分は忘れておいてくれよ」
424: デュレ「仕方ありませんね。ふふ、特別ですよ？」
425: サム「おーこわ。したたかな姉ちゃんだなあ……で、おまえらは？」
426: デュレ「私はデュレ。そしてこっちがセレスです。ここには、ちょっと観光に行こうとして、道に
427: 迷ってたどりつきました」
428: サム「……嘘だろ」
429: デュレ「さあ。どうでしょうね？」
430: サム「まあ、いいが。でもヤバイぞ」
431: セレス「なんで？」
432: サム「朝になれば狩が始まる。そうなったら、厄介なことになるぞ」
433: セレス「狩？」
434: サム「本当に知らないんだな……。エルフ狩だよ」
435: デュレ「なんでですって!？」
436: サム「ここではエルフは憎悪の対象なのさ。トリリアン、で名前は聞いたことがあるだろ」
437: セレス「知らない」
438: サム「……ホントにどこの田舎から来たんだ。反リテール協会組織だよ」
439: デュレ「それが、私たちと何の関係が？」
440: サム「説明してやりたいのはやまやまだが、もうすぐ夜明けだ。場所を変えよう」
441: セレス「そんなこと言って、どっか物陰にでも連れ込もうとしてるんじゃないでしょうね？」
442: サム「なんでそんなことするんだよ」
443: セレス「だってほら、あたしってば美人だし？」
444: デュレ「……それは知りませんでした」
445: セレス「な、何よお!!」
446: ちゃっきー「Hey Girl!! てめえら、人を見る目がnothingと来ている！ こいつあ、遙か昔、千う
447: ん百年の彼方の時より、地上最大……。ノンノン」
448: サム「ぐああーまたおまえか！」
449: ちゃっきー「全宇宙的、時空を超越した史上最大超弩級のオンナの敵っ！ 手込めにした女は数知
450: れず。泣かせた女は星の数！ で、このお方はそんなこんなで、チミたちを新たなコレクションに
451: 加えようと必死の攻勢中なのだ」
452: サム「いいかげんにしろっ！」
453:
454: SE:どすっ、と踏む
455:
456: ちゃっきー「……ぐ、ぐふっ」
457: サム「……まあ、とにかくだ。どうする？」
458: デュレ「そうですね……ここはひとまず、信用するとしましょうか」
459: サム「それがいい。つかまったら、下手したら生きて帰って来れないぜ。こっちだ」
460:

08.07.29
TBN03改修正.rtf

461: SE:走り出す音
462:
463: セレス「あっ、待ってよ！」
464:
465: SE:走り出す音
466:
467: デュレ「それで、どこに行くんです？」
468: サム「オレの家」
469: セレス「やっぱりやらしいことする気なんだあああ！」
470: サム「するかっ！ どうでもいいけどなあ、いつまでもこんなところにいたら狩られてちまうぜ！」
471: 特殊な広域魔法での探査を免れるにはシメオンの外に出るか結界がつくってある場所じゃなきやま
472: ずいんだよ！！」
473: デュレ「魔法での探査、ですか……面倒ですね」
474: サム「人が探すんだったら、まだ、その辺で帽子でも買えばいいだろうけどな……」
475: ちゃっきー「おっとおっと～！？ ここで口車に乗せられて、あわれ乙女は花を散らすのかあ～
476: っ！？」
477: セレス「って、言ってるけど」
478: サム「うがーっ、邪魔だ！」
479: デュレ「飛ばしてしましましょう」
480:
481: SE:護符を広げる音
482: SE:魔法の音
483:
484: サム「お、やるな」
485: セレス「どこに飛ばしたの？」
486: デュレ「さあ……どこか遠くってしか、決めてませんから。どこでしょうね」
487: セレス「でもさっき踏み潰してたのに、すごい生命力だね、あれ」
488: サム「毒小人の生命力は黒い悪魔を超えるからな……食うとチーズケーキみたいな味がしてうまい
489: らしいけど。いくらでも再生するから、非常食には便利だとか何とか」
490: デュレ「あんなよくしゃべる非常食はちょっと」
491: サム「同感だ」
492:
493: SE:走っていく音
494:
495: サム「ここだ、入れ！」
496:
497: SE:ドアを開ける音
498: SE:足音が変わる
499:
500: セレス「うわ、暗っ！ どこ、ここ！？」
501: サム「おれんちが続く地下道だ。ここなら例の魔法探査も多少は免れる」
502: セレス「何その怪しいの！ 怪しすぎ！！」
503: サム「いいから入れっ！」
504: デュレ「セレス、ふざけてないで行きますよ」
505:
506: SE:走っていく音

08.07.29
TBN03改修正.rtf

507:
508: サム「足元には気をつけるよ！」
509: デュレ「言われなくとも！」
510: セレス「これしきの暗闇、ぜんぜん平気だし！ けど、でも、デュレ。あたしのそばから離れない
511: でよお～へ。って、あれ？ 何か、光ってない？」
512: デュレ「あら、本当だ……なんでしょうね」
513:
514: SE:歩く音
515:
516: セレス「小さい……宝石みたい。どうやって浮いてるのかな」
517: デュレ「それに、見たこともない物質ですね。なんでしょうか？」
518: サム「それは精霊核さ」
519: セレス「えっ、これも！？」
520: サム「闇の精霊核。生まれたてのな」
521: セレス「ふわ、すごいなあ……でも、こんなに小さいんだね。大きいだけかと思ってた」
522: サム「これから大きくなるんだよ。まだこれは生まれたばかりだから……そうだな、あと200
523: 年もすれば、いい大きさになるだろうし、精霊も生まれているだろう、きっと」
524: デュレ「200年……ふむ」
525: セレス「どうしたの？」
526: デュレ「ちょうどいい頃合だと思って」
527: セレス「ちょうどいいって……ああ。そっかそっか」
528: サム「記念に、名前でもつけてみるか？」
529: デュレ「私が？」
530: サム「エルフなら、こいつの成長を待てるだろ。闇護符の使い手なら、のどから手が出るほどほし
531: いんじゃないのかい？ ——闇の精霊と契約するなんて懂れるだろ？」
532: デュレ「それはそうですが……」
533: サム「——精霊核に名前をつけるのは、約束なのさ」
534: デュレ「約束？」
535: サム「いつかまた、必ず出会うっていう約束」
536: デュレ「……いつかまた、必ず」
537: セレス「だったら、名前つけてあげたら？」
538: デュレ「そうですね……シルト、というはどうでしょうか」
539: サム「悪くない名前だ。なかなかの博学、物知りだな」
540: セレス「え？ どういうこと？」
541: デュレ「古代エスメラルダの神話に出てくる、闇をつかさどる神の名です」
542: セレス「へえ～、詳しいんだなあ」
543: サム「ホントにな。こんなところで野良エルフやってるとは思えない」
544: デュレ「ふふ、知性が体からあふれているでしょうか」
545: サム「いい夕マだ」
546: デュレ「誉め言葉だと取っておきます。ところでサム、精霊核はともかく——あなたの家までは、
547: まだ遠いんですか？」
548: サム「いや、もうすぐだ。そこの戸を開ければ」
549:
550: SE:戸をあける
551:
552: セレス「ぶはっ！ やっと地上！！」

08.07.29
TBN03改修正.rtf

553: デュレ 「……と、いっても、かなり汚れていますね」
554: サム 「男の一人暮らしなんて、こんなもんだろ」
555: セレス 「そ、そうかなあ？ 洗濯物は山盛りだし、洗い物もたまってるみたいだし……」
556: デュレ 「人のすむところとは思えませんね」
557: サム 「はは、手厳しいな」
558: デュレ 「普通の反応です」
559: セレス 「うん、うん！」
560: サム 「ま、その辺に座れよ。えーっと……」
561:
562: SE: ごそごそ音
563:
564: デュレ 「何を探しているんです？ お茶なら、さすがにそんなところに埋まっているような葉っぱ
565: を使われるのは……」
566: サム 「何言ってるんだ。これだよ、これ」
567:
568: SE: ものを投げる音
569:
570: セレス 「え、これ……スカーフ？」
571: デュレ 「の、ようですね。くしゃくしゃになってますけど」
572: サム 「くしゃくしゃにしてあるだけで、洗いたてだから安心しろ。今はいいが、外に出るなら耳、
573: 隠さないとまずいだろ」
574: デュレ 「隠したって、魔法で探してるのでは意味がないのでは？」
575: サム 「魔法での探査は朝夕1回ずつだからな」
576: デュレ 「それでしたら、これはありがたくお借ります」
577: サム 「ああ、別に返さないでいいって。オレは使わないし」
578: デュレ 「ふふ、あなたって、思ったよりもいい人かもしれませんね」
579: サム 「なんだよ、急に……」
580: デュレ 「いい人ついでに、ちょっと教えていただきたいことがあるんです。シェイラルという方の
581: 一族を知りませんか？」
582: サム 「シェイラル……！」
583: デュレ 「知っているんですね？」
584: サム 「し、しらねえな」
585: セレス 「ウソだ！ 知ってそうな顔してる！！」
586: サム 「しらねえよ！」
587: デュレ 「怪しいですね……」
588: サム 「そんな顔したって、知らないものは知らないからな？ とにかく、オレは何も知らない」
589: セレス 「ふうん……」
590: サム 「オレはちょっと出かけるから、夕方までにはここを出た方がいいぞ。夕方はもっと大規模な
591: 探査があるからな。ちょっと地下に隠れたくらいじゃ、すぐに見つけ出されるぜ」
592:
593: SE: ドアを開ける音
594: SE: 去っていく足音
595:
596: セレス 「怪しいよね？ 絶対知ってるよ、あの顔」
597: デュレ 「そうですね……ただ、一筋縄ではいかないかも知れません」
598: セレス 「そうだよ。どうしようか？」

08.07.29
TBN03改修正.rtf

599: デュレ 「あら。こういうのは得意でしょう？」
600: セレス 「ふっふっふ……あたしたちに協力せざるをえないようにしてやれ、ってことね」
601: デュレ 「ええ……時間がないですからね」
602: セレス 「え、どうしてわかるの？」
603: デュレ 「そのカレンダー。日付にバツをつけていって、使っているようですね」
604: セレス 「ああ……ホントだ。そう考えると、もう、猶予はほとんどないね」
605: デュレ 「そういうことです。急がないと……」
606: セレス 「うん、がんばろう！」
607: デュレ 「……まあ、まずはちょっと、掃除でもしますか」
608: セレス 「ええーっ！？」
609: デュレ 「簡単に恩を売る方法ですよ？」
610: セレス 「な、なるほど……」
611: デュレ 「サムが帰るまでに終わらせましょう」
612: セレス 「ううっ、これ、そんな短時間でキレイになるのかなあ……！」
613:
614: //続く